



# 営農NEWS



## トマト黄化葉巻病の発生を抑制するため、栽培終了後の蒸し込み処理を徹底して、伝染環を絶つことが重要です

トマト黄化葉巻病は、本県に侵入してから急速に被害が拡大し、難防除の病害として県内各地のトマト産地で大きな問題となっています。

本病はタバココナジラミ類（バイオタイプQおよびP）によりウイルスが媒介されるため、防除対策として **媒介虫を①施設内に侵入させない、②施設内で増殖させない** ことが最も重要となりますが、あと一つ、伝染環を絶つために③トマトの栽培が終了した後、生きたまま媒介虫を施設外に逃がさないことも重要な対策となります。これは、逃げ出した媒介虫が施設周辺の雑草や野生えトマトなどに、また、他の施設や露地トマト圃場に侵入してウイルスの温存や増殖を営って生き残り、再び、それらの子孫がトマトを栽培するときに飛び込んでくる可能性が高くなるからです。

トマトの栽培終了後には、この悪い伝染環を断ち切るためにも、下記を参考にして蒸し込み処理などを徹底し、媒介虫の死滅を図ってください。

なお、タバココナジラミ類による被害の抑制効果を高めるためには、地域や産地全体が共同で対策にあたることが重要になります。

＜タバココナジラミ類をハウス外に逃がさないために＞

- 1 トマト栽培中に、タバココナジラミ類の発生量が多い場合は、野外へ飛び出す個体数が増えることが予想されるため、**栽培が終了するまでには薬剤防除を徹底**してください（表1を参考にしてください）。
- 2 トマト栽培終了後の蒸し込み作業は、トマトの株元を切断するか又は抜き取る等の作業を行った後に、ハウスを密閉して、目安として**ハウス内温度が40℃を超える期間が連続5日以上持続させる**ことが必要です。

表1 トマト、ミニトマトにおけるコナジラミ類の主な防除薬剤（平成26年5月22日現在）

薬剤名	対象作物		使用量または希釈倍率	使用時期／使用回数
	トマト	ミニトマト		
スタークル粒剤※	○	○	1～2g/株 株元散布	育苗期/1回
	○	○	1～2g/株 植穴土壌混和	定植時/1回
	○	○	1g/株 株元散布	生育期 但し、収穫前日まで/2回以内
ベストガード粒剤※	○	○	1～2g/株 株元処理	育苗期/1回
	○	○	1～2g/株 植穴処理土壌混和	定植時/1回
スタークル顆粒水溶剤※	○	○	100倍 セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊 (30×60cm、使用土壌約1.5～4.0ℓ) 当り0.5ℓ灌注	定植時/1回
	○	○	2,000～3,000倍	収穫前日まで/2回以内
ベストガード水溶剤※	○	○	1,000～2,000倍	収穫前日まで/3回以内
アニキ乳剤	○	○	1,000～2,000倍	収穫前日まで/3回以内
コルト顆粒水和剤	○	○	4,000倍	収穫前日まで/3回以内
ハチハチフロアブル	○	○	1,000倍	収穫前日まで/2回以内
コロマイト乳剤	○	○	1,500倍	収穫前日まで/2回以内
サンマイトフロアブル	○	○	1,000～1,500倍	収穫前日まで/2回以内
ディアナSC	○	○	2,500倍	収穫前日まで/2回以内
チェス顆粒水和剤	○	○	5,000倍	収穫前日まで/3回以内
ノーモルト乳剤	○	○	2,000倍	収穫前日まで/2回以内

注) ※印の付した薬剤は、ネオニコチノイド系です。同一系統薬剤の連続使用は、避けてください。

農薬を使用する際は、ラベルに記載の登録内容、使用法、注意事項などを確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040